

第1号議案

道路改築事業

国道353号 金井バイパス 渋川市金井

着工年度
評価理由

平成17年度
社会的状況の変化

1. 事業の目的

国道353号金井バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等へのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済の活性化や医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。
また、ハッ場ダム地域の生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

【上信自動車道全体の効果】

医療施設への搬送時間の短縮

吾妻地域から群馬県の総合周産期母子医療施設への1時間圏域人口が約9千人増加
【約24千人 約33千人】

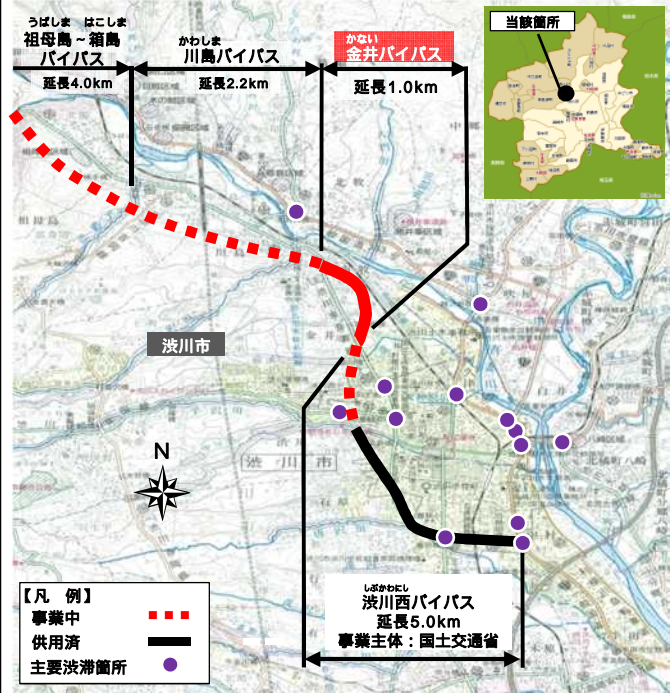
関越自動車道へのアクセス向上

関越自動車道 渋川伊香保ICから草津温泉へのアクセス時間が約30分短縮
【約90分 約60分】

ハッ場ダム地域の生活再建を支援

【上信自動車道 金井バイパスの効果】

国道353号及び渋川市街地周辺の渋滞緩和
北群馬橋交差点 渋滞長400m 解消



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	渋川市金井	
区分	前回再評価時	今回再評価時
全体事業費	5,300百万円	6,500百万円
全体事業費増減の理由		・埋蔵文化財調査の追加に伴う増 (金井下新田遺跡) ・軟弱地盤対策の追加に伴う増
事業期間	H17～H30	H17～H31
事業内容	道路延長 1,000m 幅員 10.5m	道路延長 1,000m 幅員 10.5m

事業経緯

年度	主な経緯
H17	事業着手
H23	用地買収着手
H24	工事着手

進捗状況

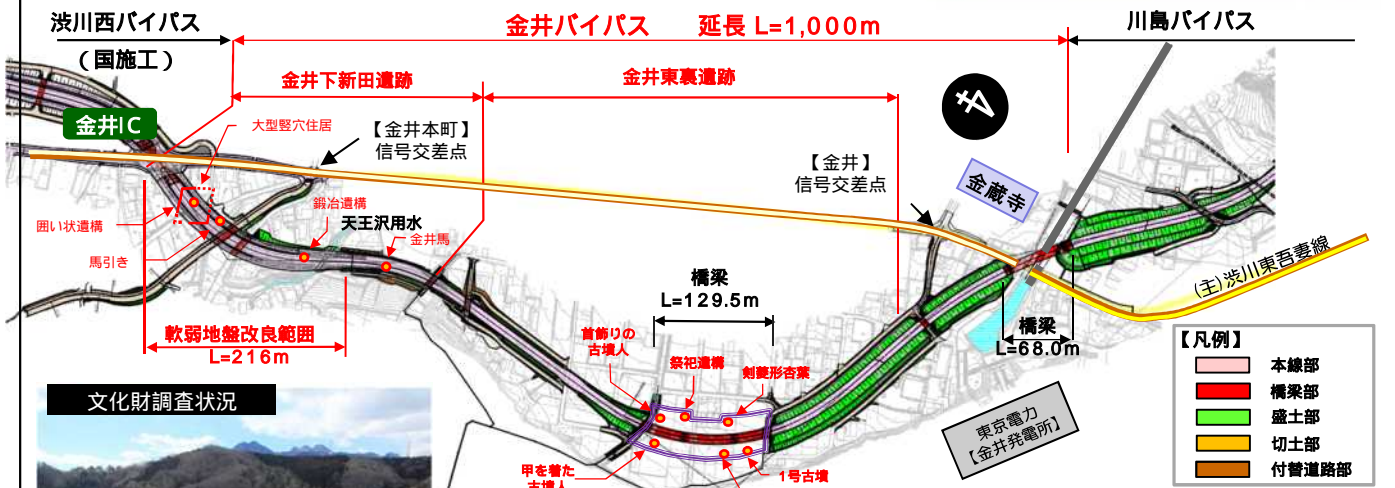
	全体計画	前回評価時の進捗状況 (進捗率)	現在の進捗状況 (進捗率)
事業費	6,500百万円	2,484百万円 (38.2%)	4,714百万円 (72.5%)
用地買収	43,240㎡	38,537㎡ (89.1%)	42,266㎡ (97.7%)
計画延長	1,000m	0m (0.0%)	0m (0.0%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

地域高規格道路「上信自動車道」



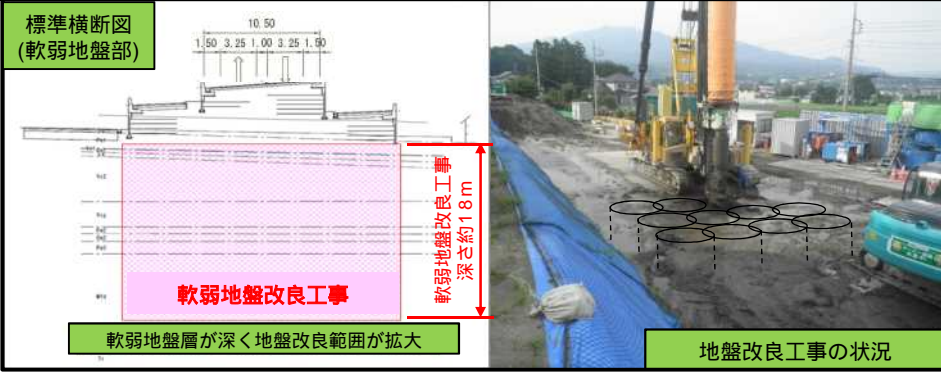
金井バイパス概要



文化財調査状況



軟弱地盤に対する地盤改良工事について



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

吾妻地域と県央地域間の移動時間は改善されておらず、地域高規格道路の整備により、物流・観光等の地域間交流の拡大による地域経済の活性化や、医療施設への患者搬送時間短縮が望まれおり、事業の目的・必要性に変化はない。

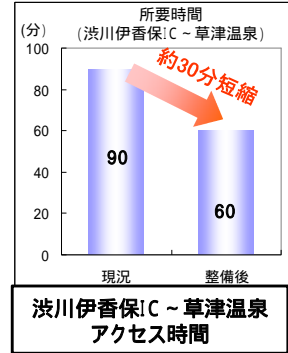
国道353号(渋川市北牧)では、北群馬橋交差点を中心に渋滞が発生しており、吾妻地域の活性化には交通混雑の解消が急務である状況に変化はない。

国道353号 交通量調査結果 渋川市北牧付近(H22センサス)
 交通量: 16,502台/日 混雑度: 1.40()

混雑度1.0以上が渋滞



国道353号の渋滞状況



4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

本バイパスは上信自動車道の一部として整備しており、高速道路網が未整備である吾妻地域のアクセス向上には欠かせない道路である、一連区間として整備することにより、吾妻地域の活性化に大きな効果が期待できる。渋川市内の慢性的な渋滞を解消するには、市街地を迂回する交通の分散が図られるバイパス整備が有効である。このため、目的を達成するための手段として適当である。

【事業費の増加要因】

金井下新田遺跡において、用地買収後の試掘結果に伴う調査範囲の拡大、多数の遺物の出土に伴う調査費用の増加
 地質調査結果を踏まえた詳細検討の結果、構造物の基礎工事における軟弱地盤対策費用が追加となることによる。

費用便益分析

単位:千円

		前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月			
基準年		平成26年		平成28年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	5,248,000	98.3%	6,536,000	98.5%	事業費増加による	
	維持管理費	97,000	1.7%	97,000	1.5%		
費用合計(C)		5,345,000		6,633,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便	5,151,000	56.3%	5,321,000	56.3%		
	交通事故減少便	663,000	7.2%	685,000	7.2%		
	走行経費減少便	3,342,000	36.5%	3,453,000	36.5%		
便益合計(B)		9,156,000		9,461,000			
費用対効果分析(B/C)		1.71		1.43			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

【不測の事態により長期化】

【元々が長期計画の理由】

インターチェンジごとに開通目標を設定して計画的に事業を推進しているが、事業延長L=1.0km、全体事業費53億円(変更前)と事業規模が大きく、地元調整、用地取得、埋蔵文化財調査及び工事完成までに長期間を要する計画となっている。

【不測の事態により長期化した理由】

金井下新田遺跡の埋蔵文化財調査において、隣接する金井東裏遺跡同様に古墳時代後期(6世紀初頭)に噴出した榛名山の火砕流層から網代垣によって囲まれた大型住居や特殊な土器を含む複数の祭祀遺構が発見され、追加調査の実施に伴い約1年の不測の日数を要するため、開通時期を1年遅延し平成31年度となる見込みである。

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

事業計画の変更

スケジュールの変更

国道353号金井バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等へのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済の活性化や医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

また、ハッ場ダムの生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

国道353号のほか渋川市街地周辺では、依然として渋滞が発生しているなど、吾妻地域と県央地域間の移動時間の短縮が図られておらず、吾妻地域の地域経済の活性化に資する上信自動車道の整備が急務である状況に変化はない。

金井下新田遺跡の埋蔵文化財調査において、試掘結果により調査対象範囲が拡大されたこと、網代垣によって囲まれた大型住居や特殊な土器を含む複数の祭祀遺構が発見されたことによる調査費用の増加、また、地質調査結果を踏まえた詳細検討の結果、構造物の基礎工事における軟弱地盤対策費用が増加し、全体事業費が約12億円の増加となるとともに、埋蔵文化財発掘調査期間の延長により、開通時期が1年遅れ、平成31年度となる見込みである。

【12億円の増額の内訳】

1. 貴重な遺構の出土による埋蔵文化財調査費の増額 → 5億円
2. 軟弱地盤対策費用の増額(地盤改良V=76,000m³) → 7億円

整備推進にあたっては、調査による遅れが最小限となるよう施工工程を見直し、工事期間の短縮を図るとともに、施工時期の調整を行うことで、購入を予定していた盛土材料を他工区からの残土を有効活用し、盛土工事費の縮減を図るとともに、他工区の残土処分費の縮減にも努めている。

以上から本事業の必要性、重要性は高く、事業を継続実施し、早期に効果発現を図ることが適切であると考えます。